



平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年1月27日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 エヌ・ティ・ティ・データ・イントラマート

コード番号 3850 URL <http://www.intra-mart.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 中山義人

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部長

(氏名) 鈴木誠

TEL 03-5549-2823

四半期報告書提出予定日 平成24年1月31日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	2,428	22.5	142	75.4	143	67.4	71	61.8
23年3月期第3四半期	1,981	—	81	—	85	—	44	—

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 61百万円 (39.8%) 23年3月期第3四半期 43百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	3,176.34	—
23年3月期第3四半期	1,989.21	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	3,135	2,291	70.8
23年3月期	2,733	1,800	62.9

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 2,218百万円 23年3月期 1,720百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	700.00	700.00
24年3月期	—	0.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	900.00	900.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,400	13.2	340	27.1	348	26.5	198	26.7	8,565.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期3Q	24,775 株	23年3月期	22,275 株
24年3月期3Q	— 株	23年3月期	— 株
24年3月期3Q	22,566 株	23年3月期3Q	22,275 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますのでご了承ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
(3) 継続企業の前提に関する注記	7
(4) セグメント情報等	7
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(6) 重要な後発事象	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、東日本大震災の影響による停滞を脱し回復の兆しも見えませんが、設備投資の回復には至らず、欧州経済の先行き不安からくる急激な円高や株価の低迷など、先行き不透明な中で推移しました。

情報産業分野においては、クラウドコンピューティングやSaaSといった新規分野の拡大により、Webシステムの重要性は一層高まっているものの、主に東日本大震災の影響を受けた地域や業種の設備投資に慎重な傾向が見られるなど、引き続き厳しい状況が続きました。

このような情勢のもと、当社グループは、「①市場におけるプレゼンスの確立、②高い品質及び顧客満足度の実現、③コーポレートガバナンスの充実」を当期の重点方針として掲げ、業績の向上に努めてまいりました。

具体的には、「市場におけるプレゼンスの確立」として、スマートフォンがもたらすビジネススタイルの変革に向けた取り組みを更に加速させることが重要であるとの認識に基づき、国内最大規模の移動通信事業者である㈱エヌ・ティ・ティ・ドコモとの資本・業務提携を実施しました。これによりスマートフォンやタブレット端末の最新動向やエンドユーザーの多様なアプリケーションニーズを把握し、新規顧客開拓に向けた取り組みを進めてまいります。

「高い品質及び顧客満足度の実現」として、拡大するスマートフォン・タブレット等のモバイル化のニーズに対応するため、Webシステム開発基盤である「intra-mart WebPlatform」に、モバイルアプリケーションを短期間かつ容易に開発・動作させる事ができる「IM-Mobile Framework」の機能を搭載し、業務アプリケーションの早期モバイル化の実現を可能にしました。

また、より一層の開発生産性を実現するためのツールとして、クラウド対応のPC/スマートフォン向け画面作成ツール「IM-FormaDesigner」を提供しました。

この結果、売上高2,428,127千円（前年同四半期比22.5%増）、営業利益142,986千円（前年同四半期比75.4%増）、経常利益143,426千円（前年同四半期比67.4%増）、四半期純利益71,677千円（前年同四半期比61.8%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりです。

(イ) パッケージ事業

「intra-mart」は、全国の特約店パートナーを通じて販売しており、海外案件やSaaSによる提供など新規分野での展開があったものの、一部アプリケーション製品で期ずれが発生し、製品販売は全般に低調に推移しました。なお保守については引き続き堅調に推移しました。

この結果、売上高は1,272,787千円（前年同四半期比5.8%増）となりました。

(ロ) サービス事業

「intra-mart」を利用したシステム開発やコンサルティングなどの周辺サービスは、SI案件を中心に受注状況に進捗の遅れがみられるものの、基盤向けのコンサルティングサービスや上期に受注した大型SI案件などにより、全般に堅調に推移しました。

この結果、売上高は1,155,340千円（前年同四半期比48.3%増）となりました。

(当グループの四半期業績の特性について)

当社グループのパッケージ事業及びサービス事業（コンサルティング、システム開発等）は、一般企業を対象としており、事業年度を4月から3月までと定めている企業が多いため、システムの導入・検収が年度の節目である9月及び3月に集中する傾向があります。サービス事業の一部の売上高の計上基準については、工事進行基準を適用しておりますが、売上高の大半が工事完成基準（検収基準）である当社グループの業績にも季節的変動があり、売上高、利益とも第2、4四半期に集中する傾向があります。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産

当第3四半期連結会計期間末における資産は、パッケージ事業における開発中の市場販売目的ソフトウェアであるソフトウェア仮勘定が増加したことにより、3,135,803千円となり、前連結会計年度末に比べ402,163千円、14.7%の増加となりました。

②負債

当第3四半期連結会計期間末における負債は、買掛金等仕入債務が減少したことにより、844,124千円となり、前連結会計年度末に比べ88,774千円、9.5%の減少となりました。

③純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、第三者割当増資により資本金及び資本準備金が増加したことにより、2,291,678千円となり、前連結会計年度末に比べ490,938千円、27.3%の増加となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

情報産業分野は、東日本大震災の影響などにより、企業のIT投資は引き続き抑制される傾向にあると思われま
す。当社グループがターゲットとするWebシステムの環境も、クラウドコンピューティングやSaaS等の新たな分野
での展開が実現しているものの、これまで以上に投資対効果の高いサービスが求められており、引き続き厳しい環
境が続くものと思われま

す。このような状況のもと、当社グループは引き続きSaaS・クラウドコンピューティング・モバイル分野への進出に
向けた統合的Webソリューションを提供するため、継続的な製品開発やソリューションの開発を積極的に取り組ん
でいきます。

また、短納期・低コストといった市場動向は続くと思われま

す。なお、パッケージ事業において受注状況に陰りがみられるものの、サービス事業においては当初計画のとおり推
移しているため、通期の業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	727,229	1,145,585
関係会社預け金	403,671	563,240
売掛金	618,762	305,132
たな卸資産	14,016	82,450
繰延税金資産	32,490	32,627
その他	77,994	92,186
貸倒引当金	△37	△33
流動資産合計	1,874,128	2,221,189
固定資産		
有形固定資産		
建物	34,341	36,482
減価償却累計額	△20,848	△25,054
建物(純額)	13,492	11,427
工具、器具及び備品	44,188	50,684
減価償却累計額	△23,823	△28,414
工具、器具及び備品(純額)	20,365	22,270
有形固定資産合計	33,858	33,698
無形固定資産		
ソフトウェア	436,926	311,998
ソフトウェア仮勘定	133,245	310,557
その他	72	72
無形固定資産合計	570,244	622,628
投資その他の資産		
投資有価証券	100,000	100,000
敷金及び保証金	96,652	106,911
繰延税金資産	56,889	50,151
その他	1,865	1,224
投資その他の資産合計	255,407	258,287
固定資産合計	859,510	914,613
資産合計	2,733,639	3,135,803

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	232,107	130,531
未払法人税等	62,687	19,927
前受金	380,567	422,977
賞与引当金	53,784	16,133
その他	122,113	151,124
流動負債合計	851,261	740,694
固定負債		
退職給付引当金	80,159	101,364
資産除去債務	1,477	1,483
その他	—	582
固定負債合計	81,637	103,430
負債合計	932,898	844,124
純資産の部		
株主資本		
資本金	516,262	738,756
資本剰余金	446,262	668,756
利益剰余金	778,328	834,450
株主資本合計	1,740,853	2,241,962
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△20,448	△23,083
その他の包括利益累計額合計	△20,448	△23,083
少数株主持分	80,334	72,798
純資産合計	1,800,740	2,291,678
負債純資産合計	2,733,639	3,135,803

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	1,981,721	2,428,127
売上原価	1,112,710	1,471,131
売上総利益	869,010	956,996
販売費及び一般管理費	787,480	814,010
営業利益	81,530	142,986
営業外収益		
受取利息	728	1,604
協賛金収入	5,750	7,000
その他	2,332	976
営業外収益合計	8,811	9,581
営業外費用		
株式交付費	—	4,335
為替差損	4,684	4,778
固定資産除却損	—	26
営業外費用合計	4,684	9,141
経常利益	85,657	143,426
税金等調整前四半期純利益	85,657	143,426
法人税等	26,961	77,529
少数株主損益調整前四半期純利益	58,695	65,897
少数株主利益又は少数株主損失(△)	14,385	△5,779
四半期純利益	44,309	71,677
少数株主利益又は少数株主損失(△)	14,385	△5,779
少数株主損益調整前四半期純利益	58,695	65,897
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△14,695	△4,391
その他の包括利益合計	△14,695	△4,391
四半期包括利益	43,999	61,506
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	35,491	69,042
少数株主に係る四半期包括利益	8,507	△7,536

- (3) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	パッケージ事業	サービス事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	1,202,539	779,181	1,981,721
セグメント間の内部売上高又は振替高	510	88,864	89,374
計	1,203,050	868,045	2,071,095
セグメント利益	311,237	44,071	355,308

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	355,308
セグメント間取引消去	△1,310
全社費用（注）	△272,467
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益	81,530

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	パッケージ事業	サービス事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	1,272,787	1,155,340	2,428,127
セグメント間の内部売上高又は振替高	5,148	70,314	75,462
計	1,277,935	1,225,655	2,503,590
セグメント利益	363,171	55,298	418,470

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	418,470
セグメント間取引消去	5,989
全社費用（注）	△281,473
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益	142,986

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成23年11月30日付で、㈱エヌ・ティ・ティ・ドコモより第三者割当増資の払込を受けました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ222,493千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金738,756千円、資本準備金668,756千円となっております。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。